

2018年3月期 第1四半期決算電話カンファレンス 主な質疑応答

日時：2017年7月28日（金）14:00 ～ 14:45

出席者：取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博
 広報・IR グループリーダー 小林 太郎

原燃料のコストアップと製品価格修正に関して

Q1：原燃料のコストアップはどのくらいありましたか。

A1：石炭、ナフサ等で20億円弱程度です。

Q2：4月の説明会でのお話しですと、年間のコストアップは前年比73億円、これが4月から12月の3四半期にかけて発生するとのことでしたので、1四半期で20億円であれば想定よりも少なかったということですか。

A2：第1四半期に限っての話ですが石炭もナフサも価格は想定よりは若干弱かったです。

Q3：原燃料のコストアップに伴う化成品やセメントの価格修正はいかがでしたか。

A3：化成品の苛性ソーダ、塩ビ、POに関しては春先から値上げを打ち出してお客さんと交渉しております。第1四半期は予算に織り込んでいる程度はお客さんにご理解をいただきました。現在も交渉中のところは、第2四半期の予算に織り込んだレベルまでは進めたいと考えています。

ライフアメニティーの事業に関して

Q4：第1四半期の営業利益は7億円でしたが、第2四半期以降利益は回復して行くのでしょうか。

A4：通期の営業利益は前年度が53億円でしたが、今年度はサン・トックスの減益やフィガロ技研の連結除外により予算ベースで前年度から13億円減の40億円です。第1四半期は出遅れましたが通期では40億円を達成できると考えています。

特殊品の事業に関して

Q5：セグメントで営業利益が5億円減少していますが、その中でトクヤママレーシアが6億円減少しています。他の事業のトータルはプラスマイナスゼロとなりますが、実際にはどうなっていますか。

A5：半導体向け多結晶シリコンの販売数量減により数億円の減益ですが、乾式シリカやICケミカルでカバーしたと言えます。

棚卸資産に関して

Q6 : 棚卸資産がずいぶん減っていますがどうしてでしょうか。

A6 : 33 億円減っていますが、その中でもトクヤママレーシアの割合が大きかったです。

Q7 : 棚卸資産の中の製品及び商品は 10 億円ちょっと、1 割程度増えていますが理由を教えてください。

A7 : ご承知の通り当社は第 4 四半期出荷が偏りますので、3 月期には一時的に在庫が減少するためです。

以上